



日 口 交 流

発行: 特定非営利活動法人日口交流協会

E-mail: nichiro@nichiro.org

Home Page: <http://www.nichiro.org>

〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-14

麻布台マンション401号

Tel: 03 (5563) 0626 Fax: 03 (5563) 0752



第2回日本料理教室

小野田 正子

6月26日に、田町リーブラで二回目の日本料理教室を開催しました。今回は、茗荷、梅干し、高野豆腐の日本の食材を取り入れてみました。

茗荷は主に、薬味として使われることが多いです。例えば 素麺の汁や冷ややっこの薬味とか。梅干しはそのまま食べることも多いですが、あまり多くはありません。梅干しの塩分は酸味が食欲を増すと考えられ、夏バテに良いと昔から言われて

おりますが、塩分が結構含まれており今は余りたくさん食べるのは考えものです。高野豆腐は豆腐を乾燥させたもので、豆腐は大豆から作られており、日本では、大豆は畑の肉と言われたりもしています。これは、たんぱく質が多く含まれているからです。高野豆腐は乾燥されていますので、貯蔵もでき、以前は大変便利に使われていましたが、今の時代、どこの家庭でも冷蔵庫があり豆腐の保存ができるので、高野豆腐を使うことが少なくなったように思われます。

どれも日本料理には欠かせない、日本独特の食材ですが、使い方を知ってもらうためにも是非一度紹介したいと思えました。そして、すぐに使ってもらえるように夏向きのレシピを選んでみました。

①茗荷の握り寿司: 今回は、すし飯(すし酢を混ぜ合わせたご飯)を握り、軽くゆですし酢に漬けた茗荷を載せました。



普茶料理という精進料理によく出されます。茗荷の他にも、簡単にアボカドや卵焼き、スモークサーモンなどを握っても良いと思います。ミョウガの赤、アボカドの緑、卵焼きなら黄色、と見た目も華やかに楽しめるのではないのでしょうか。

②鰯の梅干し煮: 旬の鰯を梅干しと一緒に煮魚に。煮魚を作るとき、梅干しやごぼうと一緒に入れて魚の匂いをとります。梅干しは酸味があり、魚の骨を柔らかくもしてくれます。圧力鍋を使うと、骨まで丸ごと食べられるようになります。魚は鰯だけではなく、秋

が旬のサンマも最適です。

③高野豆腐と肉団子の煮物: 高野豆腐は水につけ戻してから使うものとそのまま使うものとあります。今回は簡単にそのまま使うものにししました。だし汁をよく吸うので、だし汁はたっぷり用意。卵でとじて食べるのも美味しいです。

今回の教室では以上の料理を紹介させていただきました。皆さんとても楽しそうに写真を撮ったり、それぞれの料理ができたと思います。皆さんの料理がどんなお味なのかとても気になるところですが、試食ができないのがとても残念です。皆さんの感想も気になるところです。最後になりますが通訳のオクサーナさん、最初から面倒を見てくださった千葉さん、ありがとうございます。そして参加して下さった皆様、ありがとうございます。

栄養士の小野田先生は、材料も吟味し解説も丁寧でした。参加した大使館の皆さんは、調味料にいたるまで袋の写真を撮ったりして買う時の参考にしていました。見たことはあるけど使ったことがない、とか、こんなに簡単においしくなるんですね、と言いながら楽しそうに作業。日本人もつられて生き生きと、手真似や片言のロシア語でお手伝いに参加。

最後は、ロシアの皆さんは見事なまでに清潔に片づけを終えて、心遣いのお土産までみんなに渡して帰られました。後日、豪華なイワシの厚みに驚いた、ミョウガが美味しく変身していた、豆腐にしみた味が忘れられない、といった感想をたくさん伺いました。二部屋を広く使って換気しましたが、マスク、消毒、手袋など、皆さんにはご協力いただきありがとうございます。(担当者)

お知らせ

●ロシア語クラス生徒募集!

水曜 初級2 (18:20~19:20) 初級1A-1 (19:25~20:25)

初級1A-2 (20:30~21:30) 金曜 入門 (18:30~20:00)

土曜 上級 (10:00~11:30)

オンラインクラスは月曜ゼロからクラス①(19:15~20:15)

日曜ゼロからクラス②(18:00~19:00) 中級1、中級2のグループレッスンが4クラスあります。

*事務所では少人数で実施し、消毒液、パーテーション等用意して十分配慮はしておりますが、受講の皆様はマスクの着用、換気、手洗い等、感染の予防にご協力お願いいたします。(緊急事態宣言の際は原則オンラインとなります。)

対面クラス、オンラインクラスともプライベートレッスンも実施しておりますので、ご希望の方はご相談ください。

コルド・ナターリア (初~中級)、イローナ・パルフェノワ (中~上級)、タチヤナ・スニコ (初~上級)、ウラジーミル・ポロビエフ (初~中級)、オクサーナ・ピスクノワ

●テーマ別ロシア語「おもてなしロシア語」10

日時: 2021年9月5日, 9月19日, 10月3日(日)13:30~16:00

場所: 田町リーブラ (みなとパーク芝浦) 2階学習室D2

会費: 会員7,000円、一般8,000円

*協会事務局までお問い合わせください。

E-Mail: nichiro@nichiro.org Tel: 03-5563-0626

お願い

NPO 日口交流協会では、ロシアでの日本の伝統文化などの紹介、国内でのロシア関連の学習会、ロシア人とのイベント交流など幅広い活動を続けています。これらの活動を一層推進させるために皆様からのご寄付をお願い申し上げます。一口千円からいくらでも結構です。朝妻幸雄氏にご協力いただきました。ありがとうございます。

振込先: 郵便口座 00160-9-66486、加入者: 日口交流協会
連絡先: 日口交流協会事務局 E-Mail: nichiro@nichiro.org

Tel: 03-5563-0626 Fax: 03-5563-0752

赤沼さんのこと

島田 顕

モスクワ放送の日本語放送の歴史の中で、レジェンド、つまり伝説となっている職員は数多くいるが、熱烈な愛妻家として有名だったのが赤沼弘さんだ。赤沼さんは東京生まれ。18歳からハルピン学院でロシア語を学び、召集、ソ満国境で終戦を迎え、以後抑留生活に入る。ロシア語の才能が認められ、収容所では通訳として働いた。日本人抑留者向けの新聞である『日本新聞』のハバロフスク編集部を経て、モスクワ放送のハバロフスク放送局の日本語放送の初代日本語課長であったバンドゥーラ中佐に引き抜かれ、日本語放送に従事することになる。

RGVAロシア国立軍事文書館には、収容所から放送局への、赤沼弘さんと川越史郎さんの引き渡しに関する文書が残されていた。内務省第16ラーゲリ総務部長工兵少佐オサードチイ [宛] 1948年5月31日付という文書で、「下記に署名した我々、内務省第16ラーゲリ第5ラーゲリ支部支部長メルクリエフ中尉と、ヴァルドゥリ陸軍中佐は、1948年4月29日付の第2080項のため、ロシア内務省管理に基づき、第5ラーゲリ支部の軍事捕虜 [抑留者] の日本人の受け入れと、極東軍政治指導本部ラジオ編集部への引き渡しを行った。1. 赤沼弘、1924年生まれ、伍長、東京生まれ、埼玉県南埼玉郡 [以下略]、2. 川越史郎 [以下略]。上記の日本人抑留者は、文書において合理的なもののみなされている。すなわち、食糧関係書類、物品目録、所有物、身体的状況に関する衛生部の書類、注射書類である。引き渡し側：内務省第16ラーゲリ第5ラーゲリ支部支部長メルクリエフ中尉。受け入れ側：政治指導本部ラジオ編集部監督官、[略]、ヴァルドゥリ陸軍中佐」とある。

赤沼さんの放送局入局は川越史郎さんと一緒だった。以後、赤沼さんは川越さんと行動をほぼ同じくすることになる。放送局では赤沼さんが主に翻訳を担当し、それを川越さんがアナウンスしていた。ハバ

ロフスクでロシア人の奥さんと出会う。なんと赤沼さんの奥さんは川越さんの奥さんのお姉さんだった。さらに川越さんより少し遅れてハバロフスク局からモスクワ局に転勤。後に赤沼さんは、モスクワ放送をはなれ、雑誌『ソビエト婦人』日本語版の編集長となった。

実は、赤沼さんについてずっと書きたいと思っていたのだが、あまり情報がなく、詳しいものは川越さんの著書しかなかった。だが上述のようにRGVAに個人ファイル文書が残されていることが調査の結果わかった。新聞データベースを調べたら、いくつか記事が見つかった。例えば、「ハバロフスクの恋 ゲタばき赤沼さん 二児も成長」『読売新聞』(1966年1月)という記事では、奥さんと、二人のお子さんと一緒に写った写真とともに、赤沼さんの生い立ち、ハバロフスクでの奥さんとの出会い、モスクワでの生活、お子さんたちの成長の様子が紹介されている。さらに「今浦島、25年ぶりに訪日 ソ連帰化の赤沼さん」『読売新聞』(1968年7月)という記事もある。川越さんの著書では赤沼さんが1989年にがんでなくなったことが書かれているが、『毎日新聞』の赤沼さんの死亡記事(1989年12月)、さらには二人のお子さんが分骨のために日本を初めて訪れたことの記事も見つかった(1991年4月)。加えて、『季刊チャイカ』第17号(1991年1月)に赤沼さんの手記(遺稿)「ロシア、わが愛、ナージャとの出会い」があることをMさんに教わった。先立たれた奥さんに対する思いがつつられている。また以前紹介したNARAの木村慶一さんの文書にも、若干だが記述がある。ちなみに赤沼さんが翻訳されたチンギス・アイトマートフの著書もある。

これらをもとに、赤沼さんについて今少し詳しい描写ができないだろうか。いやまだ足りない。そうだ、モスクワに行こう。二人のお子さんに会ってお話を聞かなければ、本当にコロナ終焉が待ち遠しいと思う今日この頃である。

~イルクーツク便り(14)~

留学生活7年を迎えて・10

阿部 耕大

ご無沙汰しております。イルクーツク在住の阿部耕大です。突然ながら私事ではありますがイルクーツク国立大学・大学院(文献学修士)を卒業しました！ということは同時に無職となったわけですが(笑)。

卒業試験は口頭での質問2つ(ロシア語文法及び教育法)と修士論文の発表。二つとも予想以上につつがなく進み(コロナ禍で論文審査委員会の参加者が少なかったのが幸運でした)6月22日に卒業が決定してから夏休みに入りました。

それから程なくして小規模ではありますが卒業証書授与式も行われ、8年間通ったキーロフ広場前のイルクーツク国立大学の校舎へ足を運ぶ機会がもうないと思うと少し感慨深いものがありました(とはいえ大学前は友人との待ち合わせ場所として現在も多用)。途中オンライン授業に切り替わったりしたこともあり、教師・生徒双方にとって大変だった期間を乗り越えて大学の学びを終えたことはすごいことなのよ！みんなおめでとう！と卒業生に先生が投げかけていた言葉が印象的でした。きっとこの経験は世界中の学生たちに共通するものでしょうね。

大学院の卒業が決まった次の日にロシア製ワクチン《スプートニクV》の接種に行きました。前回外国人ということで接種を拒否され困っていた所、知人の医者にワクチンを打ちたくないロシア人の替え玉(!!)として接種することを提案され何の迷いもなく実行。ワクチン接種に長蛇の列を作る一般市民を横目に別室に

通され速やかにワクチンを打ってきました。生まれて初めて特権階級の気分を味わい鼻高々だったのも束の間、強い副作用(高熱、吐き気、だるさ、腕の痛み、食欲無し)の同時進行に丸一日苦しめられ、ロシア人がワクチン接種を拒否する気持ちが少し分かりました。2回目も副作用の強さは変わりませんがロシア人曰くワクチン接種反応の強さはワクチンの効果に比例する(ホントかよ)と言われたので耐えました(笑)。結果的にワクチンを打ってよかったと心から思います。というのもイルクーツクでは現在コロナ陰性またはワクチン接種完了の証明書がなければ映画館や劇場の入場を禁止する措置を取っている為です。コロナ感染者の増加が再び拡大しているのでやむを得ないでしょう。

実はワクチン接種を終えてから外出の際マスクを外して生活しております。もちろん店などから着用を義務づけられる場合もあるので常に携帯はしていますが、これにはもちろん理由があって、突然顔に赤い炎症が表れてしまい皮膚科に相談した所、現在質の悪いマスクが原因で肌のトラブルが頻発しているようです。マスクを極力外して生活するようにと医者から注意を受け(*まだコロナ禍です)、また公共交通機関の車内であっても半分以上がマスクを着用していない状況でして、ワクチンの効果を過信するのは危険ですが、マスクを一日中着けていた昨年秋に結局コロナに感染したことを考えると別にいいかという気持ちです。

ウラジヴォストークの革命家

畔上 明

金角湾を南に控えた、東西5kmのメインストリート「スヴェトランスカヤ通り」は、ウラジヴォストークが外国人に開放されることとなった1992年まではレーニンスカヤ通りと呼ばれていました。

この大通りは元々アメリカンスカヤと名付けられていました。東シベリア総督ムラヴィヨフ・アムールスキーが1859年に軍艦アメリカ号でこの地にやってきたことからの命名です。次いで、アレクサンドル二世の四男アレクセイ大公が1872年にフレゲート艦「スヴェトラナ」号で日本へ渡航した後ウラジヴォストークを訪問、市は敬意を表し通りの名前をスヴェトランスカヤに変更、現在もその当時の名称が復活して使われているのです。

この大通り散策をする上で目印となるのが、22階建ての沿海地方行政政府ビルです。ビルの東側には中央広場、週末であれば露天マーケットで賑わう広場があります。通りを挟んで北側のアールヌーヴォー様式のグム百貨店、近年洒落た雑貨ショップやカフェ等が建ち並ぶグム中庭も興味深い場所です。広場から東に進んでいくと、金角湾に架かる黄金橋が見え、その橋の手前左手奥の丘に

ゴーリキー記念沿海地方アカデミー・ドラマ劇場のガラス張りのモダン様式建築が目にとまります。2017年に訪れた時に、ここで私はヨハン・シュトラウスの喜歌劇「ジプシー男爵」を鑑賞したのです。劇場へと続く小公園には、タバの憩いを楽しむ老若



ウラジミール・ヴィソツキー像

男女の姿が行き交い、穏やかなくつろぎの中に身を浸します。丘を上る階段の半ばまで来ると、しゃがみ込みギターを抱えた銅像に出会います。ブレジネフ政権時代のソビエト体制を痛烈に批判しその叫びを独特のしゃがれた歌声で表現した吟遊詩人ウラジミール・ヴィソツキー（1938-80）の銅像です。モスクワのタガンカ劇場の俳優でもあったヴィソツキーは1971年ウラジヴォストークのプーシキン劇場で6回の忘れ難いコンサートを行いその記念に2013年像が設けられたとのこと、自作の歌を通しての体制批判は人々の良心の表れでもありました。当時を知る者には懐かしいその歌声が像の周辺に流れています。

さらに、階段の踊り場には革命家セルゲイ・ラゾ（1894-1920）の凛々しい銅像が立っています。石の台座には彼の言葉が刻まれていて、読むと「私が立っているこのロシアの大地の為に死んでも誰にもここを渡したりはしない」とあります。このラゾという赤軍パルチザン部隊の若き指導者は、ウラジヴォストークに駐留していた日本の干涉軍に捕らえられます。革命軍と敵対する白衛軍の手に渡され機関車のボイラーに生きたまま投げ込まれたという凄まじい最期を迎えるそんな伝説が語り継がれているのです。後に知ることとなった私はおののくばかりでした。1918年4月にウラジヴォストークに上陸し1922年6月に撤退した日本軍のシベリア出兵に対して学び直さなければならないと思い知らされたものです。

そういえば観光スポットの中央広場は革命戦士の広場とも呼ばれていて、そこで観光客がスナップ写真を撮る記念像は日本軍に目を向け極東ソビエト政権の為に戦った兵士たちを表しているのです。

（「プロコ・エアサービス」シニア・アドバイザー）

日口友好の絆の証

水口 淳

2021年3月31日、在日ロシア連邦通商代表部・通商代表ピョートル・パブレンコ様より元通商代表部スパンドリヤン様の生誕100周年の記念日にあたり、通商代表部の写真ギャラリーの開会式を開催するので出席依頼の連絡がありました。私は、スパンドリヤン氏は全く存じ上げない人物でしたが、生誕100周年を記念して、この日の最後に事務所正面の庭園に記念樹の植樹式に日露協力の歴史に対して敬意を表わすように、プチャーチン提督が愛された戸田村に生まれた木を植樹したいということでした。式典参加と同時に記念樹の植樹式へも併せてのご招待でした。

—プチャーチン提督は日露通商条約締結のため下田港に1854年10月15日に停泊。11月3日、第1回下田会議開始、翌日4日安政の大地震、大津波発生のため、艦船ディアナ号大破損。修理地に西伊豆戸田村が決定したが、12月2日ディアナ号富士市宮島沖に沈没。12月7日先発隊のロシア人が戸田村に入り、12月24日に日本初のキール（竜骨、肋骨）のある洋式帆船建造に係る。わずか3か月で日本初の洋式帆船進水式。船名はプチャーチン提督がヘダ号と命名した。そして、1855年3月22日プチャーチン提督はヘダ号で極東ニコライエフスクへ出港。1858年7月11日プチャーチン提督は、日露修好通商条約を江戸で調印する。1881年（明治14年）2月18日日本政府よりプチャーチンに勲一等旭日章贈る。1816年10月16日パリで永眠。その後、1820年5月21日、プチャーチン提督の娘、ロシア皇后付名誉女官、伯爵オルガ・プチャーチンが戸田村を訪問し、松城邸に宿泊した。訪問理由は亡き父が

戸田村滞在中に受けた、謝意を述べて、戸田村に貧民救助金一封を寄せられ、帰途についた。1890年10月3日、オルガ・プチャーチン永眠。—

その後、オルガの遺言で、日本外務省を経て100ルーブルが戸田村に送られてきました。100ルーブルは戸田村村議会で議決し通信省に預け、利倍増植をもって故人の善意の意に背かないように努めました。一時、日露の不幸な関係もありましたが昭和44年7月、戸田造船郷土資料博物館が完成しました。建設には当時のロシア政府より500万円の寄付金がありました。

昭和54年より戸田港まつりに、プチャーチンパレード、ヘダ号建造中に亡くなったロシア人2名の供養祭を行っています。祭りの参加者には、在日ロシア大使館公使、職員、在日ロシア通商代表部、代表、職員、ロシア留学生、日露関係団体等も参加して日露交流に対する協力に感謝いたします。コロナ感染予防で今年もまつりが中止となりました

今回の通商代表ピョートル・パブレンコ様よりは日露の友好の原点の戸田村の関係樹木の植樹には日露友好の記念になる木にしたいと言われましたので、戸田造船郷土資料博物館の建設地の松の木、プチャーチン提督が戸田村滞在中に使われ、また、亡くなったロシア人2名を祀る宝泉寺境内の枝垂れ桜の苗木を持参しました。植樹式には、パブレンコ通商代表と私で植栽をいたしました。このように、日露友好にご尽力いただき通商代表ピョートル・パブレンコ様に心から感謝申し上げます。（常任理事・NP0戸田日露交流協会理事長）

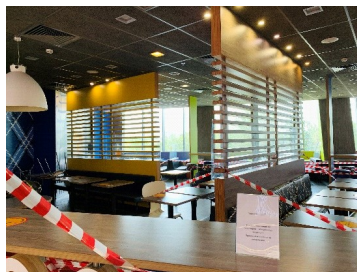
コロナ感染者が再拡大するモスクワ

西山 美久

6月に入りモスクワ市内の感染者が急増している。6月13日には7704人の新規感染者が確認された。市内の感染状況悪化を受けてソビヤニン・モスクワ市長は6月13日からショッピングモールのフードコート、レストラン、カフェ等の営業時間を23時まで短縮するほか、6月15日から5日間、市内の民間企業を休日にするといった緊急の措置を発表した。

ところが、6月19日には過去最多の9120人の新規感染者が確認されたため、市内では感染対策が実施されることになった。ソビヤニン市長は、6月28日から市内のカフェやレストラン等の飲食店の屋内席を利用するには、①コロナワクチン接種済みであること、②PCR検査の結果が陰性であること、または③過去6ヶ月以内にコロナ罹患歴があること、のいずれかを証明するQRコードを事前に取得することを義務付けた。これはモスクワ市に住む全ての人が対象になっており、このコードがないと入店拒否される。なお、飲食店の屋外席（テラス席）を利用するには、7月11日までQRコードが不要とされた。飲食業界からは当該措置で客足が遠のくとして、不安や反発の声が上がった。

写真は市内のショッピングモールにあるファーストフード店である。QRコード取得が義務化されたためか、店内で食事する人は誰もいない（筆者撮影）。他



方、テイクアウトの場合はQRコードが不要のため、レジの前に行列ができています。中には、注文した品を受け取るとショッピングモール内の休憩スペースで食事する人もおり、感染対策になっているのか微妙な感じであった。

外食のためだけにQRコードを取得するのは煩雑でどうにかならないかと思っていたところ、ソビヤニン市長は飲食業界からの反発を考慮したのか、7月19日に各種規制を解除し、カフェやレストラン等の通常営業を認めた。その代わりにコロナワクチンの接種が半ば強制されることになった。背景にはワクチン接種率の低さが関係している。モスクワ市はサービス業者や飲食業者に対して、8月半ばまでに従業員の60%以上のワクチン接種を命じた。

ワクチン接種は18歳以上の外国人労働者も対象となった。接種可能なワクチンは「スプートニクV」ではなく「スプートニク・ライト」とされ、一回の接種で完了となる。価格は一人あたり1300ルーブル（日本円で約1950円）。接種可能な場所は市内の市立診療所のほか、1980年モスクワオリンピックのメイン会場であったルジニキ・スタジアムとされた。

モスクワでは感染者が再度増加したが、市内の通りではマスクを付けずに歩く人も散見される。ロシアでは感染力の強い新たな変異株が出現しており、今後の状況を注視したい。（北海道大学）

白系ロシア人クラブツォフの足跡

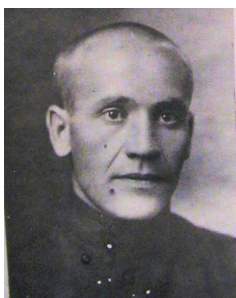
倉田 有佳

「北海道道南会」の会報『道南』（令和3年夏号）に「白系露人の昔話」が綴られている。執筆者の森本貞子氏にとって函館は、母親の実家があり、5歳になるまで過ごした場所だ。昭和16（1941）年、女学校三年生の夏休み、例年のごとく函館に遊びにやって来るが、足を痛めた祖母の湯治に付き添い、函館郊外の湯の川温泉に逗留することになる。旅館の湯槽で「コラチコフ」（クラブツォフのこと）の妻と偶然出会う。翌日、美味しいと評判の苺ジャムを目当てに「白い洋館」を訪れた。1瓶80銭と高価な「コラチコフ苺ジャム」は当時貴重品だった。一人2瓶までの決まりとなっていたが、「トーキョーからのムスメ」には特別に3瓶売ってくれた上、「重いから」と、ピンを提げて旅館まで「スタスタと速足で」送ってくれた。80年前の思い出を描いたこの一文に刺激され、クラブツォフに光を当ててみようと思いついた。

アレクサンドル・ステパノヴィチ・クラブツォフ（写真）

は、1892年8月26日ヴェルフネグレコヴォ村（現ロストフ州）に生まれた。1924年10月、日本にやって来て、翌年9月、函館郊外の湯の川（当時は湯川村・現函館市）に居を定めた。函館市西部のハリストス正教会付近は、ロシア革命を逃れてきた白系ロシア人が集住していたが、市街地から6キロ以上離れた湯の川や団助沢では、1914年秋頃から旧教徒が自給自足的生活を営んでいた。

英語とロシア語を教え始めたクラブツォフを



外務省外交史料館所蔵
(分類番号3.9.5.25)

「私のロシア語の教師」と呼び、団助沢附近の「三室の家に住み、ロシア人らしい造作で、カーテンをロシア式に張り、ロシア婦人と住んでいた」。「父が彼にサモワールを贈り、彼は私にトルストイとドストエフスキーの本を呉れた」、と回想するのは、函館出身で、バイコフ『偉大なる王』を訳した長谷川藩（しゅん）である。「ロシア婦人」は、1929年9月に神戸で結婚したスサンナ・イワノヴナのことであろう。

いつ頃からか、ジャムを手がけるようになる。1935年6月には上海に商談に赴きドイツ商會とジャム類の取引をまとめ、ジャム用の缶を函館の日本製罐に発注している。上海在住ロシア人と牧草を取引（輸出）し、鮭缶を取扱っていた頃の肩書は、「食料商」「貿易商」「仲買人」だ。

1932年秋、ロシア極東の収容所から小舟に乗って集団脱走したソ連人の囚人が北海道沖に漂着すると、救済・支援に動いた。1943年に結成された「函館露西亜人協会」の副会長を務めた。

函館駅近くの商業地区に暮らすズヴェーレフ家と親しくしていた。同家の二女ガリーナ（1933年生、1940年離函）は、クラブツォフが大きなキイチゴの農場を経営し、上等なジャムを作っていた、と回想する。四女オリガ（1940年生、1954年離函）は、函館空襲（1945年6月）後、クラブツォフ家に一時疎開していたことを覚えている。夫妻が湯の川を去った時期について確かなことはわかっていない。

（ロシア極東連邦総合大学函館校教授）